患者向医薬品ガイド

２０２４年９月更新

アドトラーザ皮下注１５０mg シリンジ
アドトラーザ皮下注３００mg ペン

【この薬は？】

販売名	アドトラーザ皮下注１５０mg シリンジ Adtralza S.C. Injection	アドトラーザ皮下注３００mg ペン Adtralza S.C. Injection
一般名	トラロキヌマブ（遺伝子組換え） Tralokinumab (Genetical Recombination)	
含有量 （１製剤中）	１５０mg	３００mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、ヒト型抗ヒトインターロイキン（ＩＬ）－１３モノクローナル抗体と呼ばれる注射薬です。
・この薬は、ＩＬ－１３に結合し、アトピー性皮膚炎の病態において重要な役割を担うＩＬ－１３の働きを抑えることで、症状を改善します。
・次の病気の人に処方されます。

既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎

・この薬はステロイド外用剤やタクロリムス外用剤などの抗炎症外用剤による適切な治療を一定期間受けても十分な効果が得られず、強い炎症を伴う皮疹が広範囲に及ぶ患者さんに使用されます。
・原則として、この薬を使用するときにはアトピー性皮膚炎の部位の状態に応じ

て抗炎症外用剤が併用されます。
・この薬を使用するときも保湿外用剤が継続使用されます。
・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。
・過去にアドトラーザに含まれる成分で過敏症のあった人
〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・寄生虫に感染している人
・長期にステロイド内服療法を受けている人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人
〇この薬は寄生虫感染に対する防御機能に関わっている可能性があるＩＬ－１３の働きを抑えます。寄生虫に感染している人は、この薬を使用する前に寄生虫の感染に対する治療が行われます。
〇この薬は病気を完治させるものではなく、この薬の使用中も保湿外用剤などを継続使用する必要があることを十分理解できるまで説明を受けてください。理解したことが確認されてから使用されます。

【この薬の使い方は？】

・この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

・使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
・通常、成人の使用する量および回数は、次のとおりです。

販売名	アドトラーザ皮下注１５０mg シリンジ	
一回量	初回	２回目以降
	６００mg	３００mg
	４本	２本
使用回数	２週に１回	

販売名	アドトラーザ皮下注３００mg ペン	
一回量	初回	２回目以降
	６００mg	３００mg
	２本	１本
使用回数	２週に１回	

・この薬は、通常使い始めてから１６週までには効果が得られます。１６週までに効果が得られない場合には、使用が中止されることがあります。

●どのように使用するか？

・皮下注射してください。
・自己注射を開始する前には、必ず医師、薬剤師または看護師から自己注射のしかたに関して説明を受けてください。
・使用前に１５０ｍｇシリンジは３０分以上、３００ｍｇペンは４５分以上かけて室温に戻してください。
・注射容器内がにごっていたり、変色したり、粒子がある場合や、容器が損傷したり、汚染がみられる場合には使用しないでください。
・注射の準備ができるまで、この薬の針キャップを外さず、針キャップを外したら直ぐに使用してください。
・大腿部、腹部または上腕部に皮下注射してください。腹部へ皮下注射する場合は、へその周りは避けて注射してください。また、同じ箇所へ繰り返し注射することは避けてください。
・正常な皮膚の部位に注射してください。皮膚が敏感な部位、皮膚に圧痛、損傷、打撲や傷跡がある部位、アトピー性皮膚炎の強い炎症のある部位には注射しないでください。
・１回に全量を使用し、再使用しないでください。
・この薬を振らないでください。

●使用し忘れた場合の対応

・決して２回分を一度に使用しないでください。予定日に注射できなかった場合は、医師または薬剤師に連絡し、指示を受けてください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

・異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で使用される場合〕

・使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬を使用している間は生ワクチン［麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、おたふく風邪、水痘（みずぼうそう）、ＢＣＧなど］の接種はできません。接種の必要がある場合は主治医に相談してください。
・長期ステロイド内服療法を受けている患者さんは、この薬の使用開始後に経口ステロイド剤を急に中止しないでください。経口ステロイド剤を減量する必要がある場合には、医師の管理のもとで徐々に行われます。
・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
重篤な過敏症 じゅうとくなかびんしょう	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱、意識の低下、口唇周囲のはれ、息苦しい、かゆみ、じんま疹、発疹

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱
頭部	意識の低下
口や喉	口唇周囲のはれ
胸部	息苦しい
皮膚	かゆみ、じんま疹、発疹

【この薬の形は？】

販売名	アドトラーザ皮下注１５０mg シリンジ
性状	無色～黄色の澄明または乳白光を呈する液
形状	

販売名	アドトラーザ皮下注３００mg ペン
性状	無色～黄色の澄明または乳白光を呈する液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	トラロキヌマブ（遺伝子組換え）
添加剤	酢酸ナトリウム水和物、氷酢酸、塩化ナトリウム、ポリソルベート 80

【その他】

●この薬の保管方法は？

・遮光のため外箱に入れたまま、凍結を避けて冷蔵庫（２～８℃）で保管してく

ださい。
・冷蔵庫から取り出し室温（30℃以下）で保管する場合は 14 日以内に使用してください。
・この薬を温めたり、直射日光にさらさないでください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

・使用済みの注射器とキャップについては、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：レオファーマ株式会社（https://www.leo-pharma.jp/）
カスタマーコールセンター
電話：０１２０－８９－００５６
受付時間：９時～１７時３０分（土、日、祝日を除く）